

## 平成21年度地域活性化活動助成の選考結果

(財)北海道開発協会 会長 小林 好宏

当協会では、21世紀の北海道開発を推進する、地域自らの発想による地域づくりを支援するため、平成21年度の地域活性化活動助成の対象となる活動を、平成20年11月1日から21年4月30日までの間、道内の非営利の市民団体を対象として公募しました。

これに対し、本年度は45件の応募をいただきありがとうございました。応募された活動の内容は、地域おこし、まちづくりを中心に観光、農業、商品開発、教育関連など多岐にわたっており、さまざまな活動に地域の人々が精力的に取り組まれていることがわかりました。

これらの活動内容について、厳正な審査を行った結果、去る6月1日、下記の9件を選考しました。

当協会では今後とも本地域活性化活動助成を続けていく予定です。平成22年度については、本年11月頃にホームページに募集要領を、「開発こうほう」12月号に募集広告を掲載する予定です。皆様方のご応募を期待しています。

### 平成21年度地域活性化活動助成団体及び活動内容

団体名	所在	活動内容の概要
NPO法人 ひがし大雪アーチ橋 友の会	上士幌町	<b>【鉄道トロッコでまちづくり】</b> 平成17年度より旧糠平駅（現上士幌町鉄道資料館敷地）で士幌線跡の鉄路再現事業として、車掌車や腕木式信号機の再塗装、踏切り信号機・警報機の設置、線路の敷設、線路沿いの桜の植樹、鉄道トロッコ試乗会などを実施している。乗車いただいた方からは延伸希望が多く、敷地内で可能な200mを延伸すると全長620mとなることから、線路を延伸し、地域観光振興の一翼を担うことを目的とする。
おたる祝津活性化委 員会「祝津たなげ会」	小樽市	<b>【地域資源を活用した漁村コミュニティの構築プロジェクト】</b> 地域人口の流出と高齢化、観光が多様化する時代の流れに対応が遅れ、地域の疲弊が進みコミュニティ機能が低下するなか、潜在資源も多く、今一度既存の資源の見直しや活用により地域コミュニティを再構築しようと本会が発足。 地域資源である歴史と文化及び海と漁業が新たな観光づくりと連携し、自ら「宝物」を発掘保存し、マーケットニーズにあった「みえる化」を行うことで地域が自信と誇りを持ち、観光都市に隣接する漁村の「海業」創出を行い、内外との交流を促し地域の活性化ひいては地域経済が再び元気になることを目的とする。
士幌スカイエンジェ ルバルーンクラブ	士幌町	<b>【すべての人々に感動!空の旅プロジェクト】</b> これまでは、扉のないバスケットであるため、主として子どもを対象にして熱気球体験搭乗を実施してきた。今後は、バリアフリーバスケット(扉付きバスケット)を導入して、お年寄りや、障がい者、車椅子の方などすべての人々に感動を与えることのできる活動を継続して実施する。
特定非営利活動法人 北見NPOサポート センター	北見市	<b>【福祉NPOと連携したオホーツク市民防災活動推進事業】</b> 平成19、20年度に北見NPOサポートセンターが網走開発建設部の協力で育成した、オホーツク災害図上訓練防災ファシリテーターを活用し、各地域の福祉系NPOの協力を得、各自治体の防災活動と協働し、地域住民が参加する災害図上訓練(DIG)の実践、町内会の防災モデル活動等の市民防災活動展示紹介等を各地で行い、住民の防災意識を高め、地域の防災力向上を目指す。

<p>留萌がんばるかい</p>	<p>留萌市</p>	<p><b>【市民によるメディカルスタッフ確保事業】</b>          地域医療を支える公立病院の多くは赤字であり、自治体の財政を大きく圧迫している状況にある。留萌市立病院を抱える留萌市も同様の状況にあり、また人口減少や少子高齢化が進んでおり、地域の活力も失われつつある。そのため、市民自らが地域の課題解決に取り組み、地域の活性化を図ることを目的に、昨年、本会を設立し、市立病院の利用率を上げるため全国的にも例のない市民の手による病院広報紙を発行し、胃カメラの受診者が増加傾向にあるなどの成果を挙げている。          この活動に加え、留萌市立病院では看護師等のメディカルスタッフが不足しているため、札幌市内の養成施設の訪問を行い、学生と交流を図り、留萌市立病院をPRすることで、メディカルスタッフの確保を図り、入院患者を制限していた状況を解消するなど、経営の好転に貢献し、活力ある地域社会の創造を目指す。</p>
<p>大門祭実行委員会</p>	<p>函館市</p>	<p><b>【第9回 大門祭】</b>          函館駅前・大門地区はかつては繁華街として栄えていたが、現在は空洞化が急激に進み元気がなくなってきている。この地域はあらゆる機能やインフラが多く整っていることもあり、駅前・大門地区の衰退は、函館全体の衰退になるといっても間違いではない。よって、この衰退を食い止める活動や方法を見出し、再び街を活性化することがこの街にとって急務である。          学生全体で開催している大門祭の目的は、大門地区のもとある魅力はもちろん、今まで知らなかった新たな魅力を伝え、当日の来場者や大門祭に関わったすべての関係者に、お祭りが終了したあとも再び大門地区に足を運ばせることで、活性化のきっかけづくりをすることである。          また今年、函館市は開港150周年を迎えることもあり、大門祭の定着と開港150周年記念事業の盛り上がりや連動することで、より地域との繋がりを築いた祭りにする。</p>
<p>NPO法人 水産物トレーサビリティ研究会</p>	<p>札幌市</p>	<p><b>【食育を通じた「将来のかしい消費者」育成事業】</b>          函館は日本で最大のコンブ生産地である。水産業の発展と地域活性化のために地元の消費者・漁業者双方が交流を図り、情報共有や体験を通して地産地消による水産物需要を増やし、地域ブランドとして育てていくことが必要と考える。          また、子供たちが食育等を通じて水産物への興味や正しい知識を習得し、食生活や食文化を学び、地域産業を大切にす気持ちを育むことが「将来のかしい消費者」を育成するうえで重要である。本事業では以下の2つの取り組みを実施する。          ①消費地におけるコンブ食育授業の実施          ②コンブワークショップの開催          上記の取り組みは、水産物需要の増加と地域ブランド創出の一端を担い、漁業などの産業振興に寄与する可能性を有している。</p>
<p>イザベラ・バードの道を辿る会</p>	<p>平取町</p>	<p><b>【イザベラ・バード・地域再発見プロジェクト～歴史から未来につなぐ一歩づくり・川づくり・まちづくり～】</b>          1878（明治11）年に英国の女性旅行家イザベラ・バード（以下「バード」）が、東北から函館に入り、道南から平取までの各地を訪ねた際の『日本奥地紀行』に残された明治初期の北海道の自然環境や景観、人々の暮らしの記録は、21世紀において地域の個性を活かした美しい北海道を発展させていくために価値ある歴史的な道標といえる。そこで、かつてバードが歩いた地域で現在進行中の「シーニックバイウェイ函館・大沼・噴火湾ルート」の活動や「沙流川水系河川整備計画」等の施策と連動しながら、特色ある地域づくりを目的に、同時代に來道した外国人も含めて各地の歴史と魅力を再発見し、現代に伝える手法の企画立案を行う。</p>
<p>特定非営利活動法人 地域生活支援ネットワークサロン</p>	<p>釧路市</p>	<p><b>【元気循環型地域活性化モデル事業プロジェクト1（子育てママパワープロジェクト）】</b>          地元で作られた無農薬野菜を使った食品の考案、加工などにさまざまな子育て中のお母さんが関わることで、地域の担い手として元気が充電されたり、資源が循環するなど、地域が活性化するソーシャルビジネスモデルを確立する。</p>